「初秋の森」　写真・菅原 正史

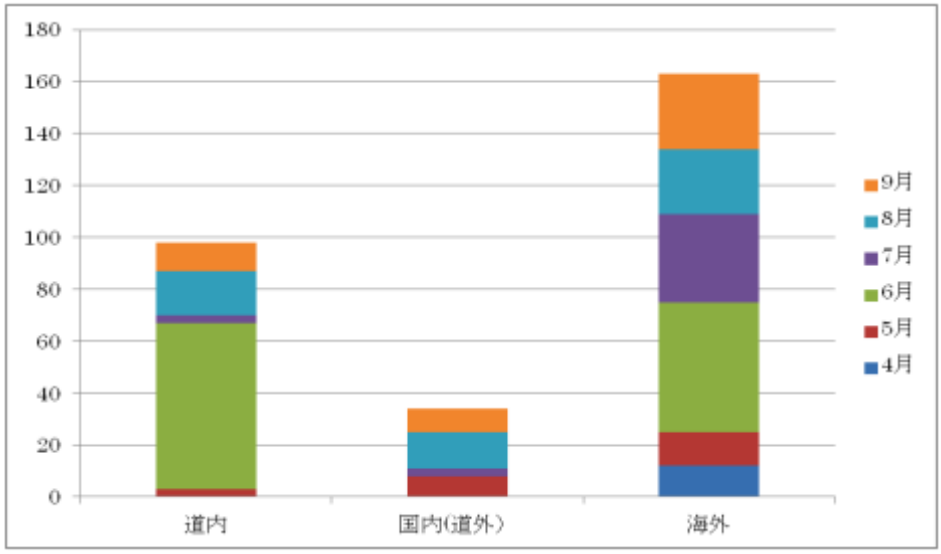
B2 ニュースレター

2017/10/20

～秋のオススメツアー～
四季のブナ林ツアー　10 月 28・29 日

釣り体験人気で国内客増加　上半期の体験交流事業ふりかえり

外国人客の集客が増加する一方で、日本人客の体験受入れ数が伸び悩んでいた昨年のグリーンシーズン。その対策として 5 月～6 月にかけ、全国の遊び、アクティビティ商品などの販売をインターネット上で行う大手レジャーサイトであるアソビュー、じゃらん、アクティビティージャパン社などと契約を結び、国内客の入込が増加しました。特に、夏休み期間中の 8 月は、外国人旅行者の入込需要が減少する時期でしたが、お盆休みを中心に道内外からの釣り体験予約の増加につながりました。来年度は、釣り体験の需要を見据え、新たな体験指導者の育成、増員を目指します。上半期の体験受入数では、昨年の 131 人に対し、今年は 245 人と受入数が増加、滞在時間も昨年の平均 2.5 時間から平均 4.5 時間の 1 日滞在に伸びています。（観光協会事務局）



日本人客と外国人客の比率（2017 年 4 月～9 月）

黒松内歴史探訪の旅Ⅲを終えて

文：地域おこし協力隊　砥石 航治

イベントを通じ、黒松内の過去、現在、未来のつながりがよくわかりました。イベント企画に携わり、「交通史・松浦武四郎と黒松内」の歴史の中に引き込まれていきました。　ページ 2

じり通信　文・写真：山本 竜也

寿都鉄道の樽岸駅と寿都駅の駅名看板が見つかった。前号に、そう書いたところ、こんどは、中ノ川駅の備品が見つかった。添別に住む大沢武彦さんが所有するお宝とは。。。　ページ 3

菅野真司の図書統括　文：菅野 真司

「冬の本」。「冬」と「1 冊の本」をめぐる、84 人の書き手によるエッセイ集。北海道が美しく楽しい季節はいつだろう！スキーに目覚めた筆者が冬の本を手に取り、雪の生活を待ちわびる。

ページ 4

＜＜イベント情報＞＞

秋のブナ林ツアー　10.21～22＆10.28～29

毎年、北限のブナの葉が黄色に染まり、黄葉がピークを迎えるのは 10 月後半です。黄金に輝くブナの森を、ガイド役であるブナセンタースタッフと伴にじっくり観察しながら歩いてみませんか。

問い合わせ：0136-72－３０１０

主催：歌才自然の家

黒松内歴史探訪の旅Ⅲを終えて

文　地域おこし協力隊・砥石航治

　ナルホド the 黒松内、過去・現在・未来は繋がっている。「サンドー」「テツドー」「タケシロー」がキーワードなイベントにスタッフ身分、一般人感覚で参加した。因みに、正式なイベント名は「交通史・松浦武四郎と黒松内」～黒松内山道から函樽鉄道・寿都鉄道まで～。来年は武四郎が北海道と命名して 150 年に当たるのでイベント名もそれに合わせて長くしたのだ。（冗談）

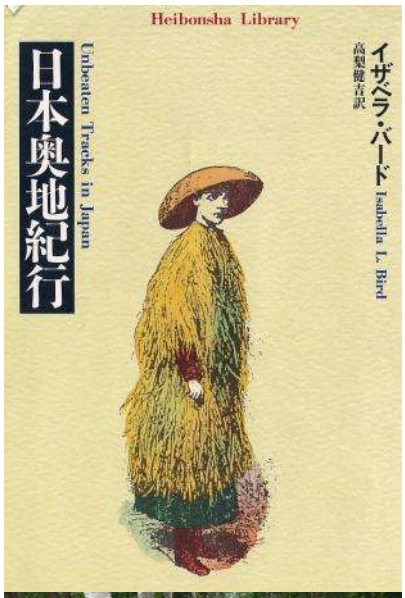
　さて、イベントの詳細はさておき、個人的に印象に残ったものを挙げてみた。当時の山道跡、鉄道遺構、黒松内発祥の地、開けてびっくり聖徳太子像、ググッても出てこない現地案内人の貴重なお話とこぼれ話、図書館にもネット上にも転がっていない貴重な資料、参加者にわか●本舗のイモテンが振るまわれた理由、サプライズな記念品。なんだか、いっぱい挙げ過ぎてイベントダイジェストっぽくなってるな・・。まあ、要は濃い内容とそれを凌ぐ案内人である北村さん、斉藤さん、藤村さん、そして歴史研究者の山本さんのディープな解説により、あっという間の 3 時間イベント。しかし、ディープに掘り下げた内容は、北海道が命名されてから 150 年という時間の奥深さを十分に体感できるものだった、ということです。

第 20 回　清流めぐり利き鮎会に参加して

　天然鮎は河川環境の影響を受けやすく、川により味が異なることから高知県友釣り連盟が天然アユの生息する全国各河川漁業協同組合などに呼び掛け、鮎の食べ比べを通じ、川の環境を改めて考えようというイベントを発起したのが清流めぐり利き鮎会のはじまりです。イベントは、今年で 20 回目を迎えましたが、全国の様々な鮎の食べ比べと地酒が味わえることから、近年は友釣りファンの他、一般参加者も増加し、開催地の高知市を中心にイベントの知名度も上がっているということを参加関係者から伺いました。20 回大会は、大会最多の 58 河川が大会にエントリーし、グランプリには愛知県天竜川水系振草川（ふりくさがわ）が選ばれたため、朱太川のアユは 2 年連続グランプリの好機を逃しました。また、予選ブロック代表 9 河川（準グランプリ）の獲得もならず、朱太川漁業協同組合の方々をはじめ、黒松内から現地入りした視察団は落胆の表情を浮かべました。しかし、大会審査前の講演会において佐藤雅彦副町長が登壇し、「黒松内町生物多様性戦略と朱太川の天然アユ」の演題で、朱太川水系の環境保全及び天然アユの資源保護に関する取組みを伝えることができたことは、他地域の河川環境の改善・保全の取り組みにも影響を与える素晴らしい功績だったと思います。（事務局・本間）

～山に登れば気分爽快～　秘境まだまだ！その九「明治・大正・昭和・平成の道　礼文華山道」

文・写真　ノースランド　辻野健治



　こんにちは～ブナの森登山ガイドの辻野です。
もう少しで、寒い日々が長く続く季節となります。 う～　黒松内周辺の秘境話も・・・・・です。しかし、次回ノースランドのツアーで歩く所、実は、秘境でした。そこは、「礼文華山道」。 江戸から明治時代、北方警備のため札幌新道が作られたのですが、ここ礼文華峠は、あまりにも難所のため、森～室蘭間が海路となっていました。でも、山道があり、松浦武史郎が礼文華山道を３回も越えています。明治 23 年からは、拡張工事も行われ、昭和 41 年に旧礼文華トンネルができるまでは、この山道使われておりました。そうそう、明治 11 年には、英国の女性旅行者、イザベラ・バードもこの峠を越えたようです。彼女の旅行記”Unbeaten Tracks in Japan”にもそのことが書かれております。バードは東京から日光へ行き、新潟、青森、そして、北海道の平取まで、旅行をしました。当時の彼女は少々太り気味の 47 才、馬 3 頭と通訳の伊藤さん、馬方(時々アイヌの人)を連れての旅行とはすごい！旅行記には、当時の日本の生活も細かく書かれており、アイヌの方々の生活状況も良くわかります。礼文華山道の入口は、国道 37 号線の黒松内町の町界から豊浦側に 200m程行った所に道有林道があり、そこから入ります、この道が昭和 41 年まで使われていたと思うと驚きです。礼文華峠には、その当時の道も約 300m程度残されております。幾人もの人が歩いたので道は掘れ、途中に「相撲とり場」と言う広場があります。何でも、山道の開削中に作業員が相撲取ったということです。旅行記には、銀杏の木の事が多く書かれていますが、きっと桂の木と間違えたと思われます。実際に歩くと、銀杏の木は見当たらず、桂の木は多かったですから。

じり通信　　文　山本 竜也

黒松内町添別の大沢武彦さん、

　寿都鉄道の樽岸駅と寿都駅の駅名看板が見つかった。前号に、そう書いたところ、こんどは、中ノ川駅の備品が見つかった。黒松内町添別に大沢武彦さんという元農家の男性が住んでいる。1929 年（昭和 4）生まれで、今年で 88 歳になる。この人が、かつて廃駅となった中ノ川駅で、切符に日付を入れる機械（ダッチングマシン）を手に入れたらしい。いまは、黒松内のガソリンスタンドに譲ったというので、そちらを訪問したところ、黒く塗られた金属製の骨董品が出てきた。高さは 20 センチほどしかないが、ずっしり重く、油の臭いがしみついている。「DATING MACHINE SUGANUMAS LABORATORY TOKIO」という文字が刻まれた蓋を開けると、日付を刻印するための装置が見える。キタカやサピカなどもちろんない時代、硬券の切符をこの機械に通すと、日付が入り、乗客はそれを持って目的地まで旅をした。ためしに、厚紙を通してみたところ、日付がたしかに刻印された。
　大沢さんによると、「寿都鉄道がつぶれたあと、中ノ川小学校で糸電話の実験をしているのを見た。電話なんて、中ノ川ではまだ珍しかった。でも、鉄道には鉄道電話があったからね。それを知っていたから、駅の事務室に行くと、やっぱり電話機が残っていた。子どもたちに教えるために学校にやったらいいべと思って、持ってきたんだわ。そのときに、目に付いたこの機械も貰ってきたというわけ」。当時の中ノ川駅には、切符も散乱しており、いくらでも拾えた。列車が来なくなった駅は子どもたちのいい遊び場所でもあった。また、さびた線路と朽ちた駅舎からなる風景を気に入ったらしく、北海道放送（HBC）がテレビドラマの舞台にしたこともある。緒方拳がやってきたので、みな大喜びで迎えた。カメラ好きの大沢さんは、子どもたちと緒方拳が並んだ写真を撮影し、いまも大事に保存している。
　今回発見された機械は、寿都町教育委員会へ寄贈された。一方、廃校となった中ノ川小学校には、いまも寿都鉄道の電話機が置かれたままになっているという。（山本竜也　札幌在住・気象庁勤務）

菅野真司の図書統括

「冬の本」　星野道夫 / 著　夏葉社 1,836 円　　◎「冬」と「1 冊の本」をめぐる、84 人の書き手によるエッセイ集

北海道が、いちばん美しく楽しい季節

自分の人生を、一度きりの季節の移ろいに喩えることができるとしたら、自分は今、どの季節を過ごしているのだろうか。そんなことを考えるということはつまり、少なくとも夏は過ぎているのだろうと思い至って、一瞬だけがっかりした。芽吹きの春と、成長の夏と、成熟の秋、そして、白い雪が何もかもを覆う冬。

黒松内に来てから２回、冬を越した。今年は雪解けの季節にふきのとうを見つけ、うれしさよりも寂しさを感じるようになっていた。いちばん美しい季節が終わってしまう。一面真っ白だった景色が、だんだんと濁ってくるような、そんな感覚さえあった。

朝起きたら除雪車が動いてくれているし、スタッドレスタイヤの性能は年々進化しているし、冬の生活に不便を感じることは、昔と比べれば格段に減っているはずだ。雪国で暮らすためのハードルが低くなっているといってもいい。北海道の冬は、寒くて厳しい。。。そういうイメージが、北海道を訪れる人の数を減らしているのだとしたら、本当にもったいないことだと思う。

去年、スキーを始めた。スノーボードは「人生の夏」のころに夢中になっていたけれど、スキーはまったくの初心者。美しい雪山を、登ってみたり下ってみたり、自在に歩いてみたいと思ったので、テレマークスキーを選んだ。まだまだスキー板の上に、ただ乗っかっているだけで、思い通りの動きにはほど遠い。でも、なぜだかものすごく楽しい。滑っているというよりは斜面を転がっている感じ。それでも、抜群に楽しい。

人生の冬、というフレーズには寂寥感が漂う。でも、ひょっとして人生における冬は、いちばん美しくて楽しい時なのかもしれない。そしてそんな冬が待ち遠しくて仕方ない。　文・菅野 真司（かんの しんじ）shinjikanno@gmail.com

求む！地域案内人

釣り体験、里山サイクリング、収穫体験、車庫焼き体験、英語エスコートなど　あなたの特技を活かしてみませんか！

夏休み期間中のヤマメ釣り体験や北海道の田舎でしか味わうことのできない生活体験など、外国人旅行者をはじめ個人旅行者の体験案内の要望が全道的に急増しています。当協会でも受入れ対策として各種案内人の育成や車庫焼き体験などのお手伝いをしていただける人材を募集しています。例えば釣り体験では、案内人の経験値や受け入れ人数により３千円～1 万円程度のガイド料をお支払しています。冬期は、ビギナー向けスキー体験やスノーモービル体験などの需要も見込んでいますので、ご興味の方は事務局までご連絡を！090-5229-2056(本間)

一社）黒松内町観光協会会員一覧

役　員　代表理事・小間 憲二・小間旅館、副代表理事・田中 春治・(有)田中商店、副代表理事・鈴木 昭文・(有)共栄商会、理事・菅原 正久・(有)菅原商会、理事・茂尾 実・サン工芸、理事・五位尾 肇・五位尾商店、理事・菅原 圭介・(株)スガワラ、理事・小谷 孝夫・黒松内銘水(株)、監事・及川 雅子・及川旅館、監事・相澤 雅也・相澤精肉店

正 会 員　明上山 ノリ 様・(有)黒松内ハイヤー、池田 重人 様・(株)池田商店、坂下 英清 様・坂下薬店、佐藤 時彦 様・(有)五十嵐時計電器店、黒羽 修平 様・黒羽商店、出口 久弥 様・(有)デグチ板金、清水目 浩一 様・(有)名取商店、磯谷 恵美子 様・いそや理容店、北海信用金庫黒松内支店 様、江尻 弘 様・黒ひげ、亀岡 利明 様・(株)亀岡組、小笠原 喬 様・川崎土建(株)、木村 淳一 様・(株)木村建設組、清水 悦子 様・パロマ理容院、荒井 秀章 様・栄寿し、今井 順子 様・今井たばこ店、三浦 義也 様・とうふ処みうら、株)ブナの里振興公社 様、高木晴光様・ぶなの森自然学校、辻野健治様・ノースランド、冨田キクヱ様・ふぁーむいん冨田、エア・ウォーター様、黒松内郵便局様、NPO 法人ひまわり様

観光協会ＨＰにて「Ｂ２」バックナンバーがご覧になれます。www.bunasatotourism.com　印刷版ご希望の方は黒松内町観光協会までご連絡願います。

======== 発行人：一社）黒松内町観光協会 発行日：平成 29 年 10 月 20 日 次号発行予定は 2017 年 12 月末　TEL&FAX:0136-72-3597 ========